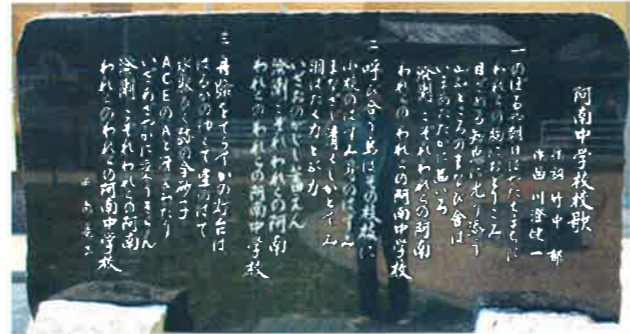


# ACE 人権通信 5月

人権教育・啓発通信：「エース」  
 発行：阿南中学校家庭・人権教育部  
 (No.2) 2022年5月27日(金)  
 文責：人権教育主事 中岡 和也

5月は、修学旅行や遠足があり、学級や学年の絆がより深まったことだと思います。仲間と助け合うことや思いやることの大切さを一層感じられたのではないのでしょうか。

6月に入ると中間テストや総体があります。学習面では日々の授業を大切に、部活動では悔いが残らないように一生懸命取り組んでほしいです。これから梅雨の時期になり、じめじめとして過ごしにくくなります。何をしても心身ともに元気であることが大切です。今後もみなさんの笑顔や一生懸命に頑張る姿を期待しています。



## ◇第1学年人権学習「自分以下を求める心」

第1学年では、「自分以下を求める心」という教材をもとに人権学習をしました。生徒たちは、教材の内容について深く考えたり、話し合いに積極的に参加したりして活発な意見交換ができていました。また、学習を通して自分にできることは何かを考えることができました。

### 「自分以下を求める心」

あれは小学校の時のことです。私たちのクラスにいじめがありました。私もほかの人たちと一緒にいじめては笑っていました。当時の私は、「自分以下の存在が欲しかった」のだと、今になって気付きます。

自分を磨く努力をしないで、ただ自分以下が欲しいだけでいじめるのは差別ですね。周りを見ても、努力しない人ほど他人を傷つけたり悪口を言ったりしている気がします。まるで魅力のない生き方ですね。その中に自分もいたと思うと恥ずかしくなります。

私は、中学生になっていろいろな人権問題について、たくさん勉強してきました。しかし、今でも、思わず、相手を傷つけたり、がっかりさせたりすることをポロッとやってしまうことがあります。そんなとき、「頭の中で分かっているだけ、知っているだけで実際の生活で学習したことが活かされていないのだ。」と反省し、後悔するのです。

私たちは、得意もあれば不得意もあります。すべてをカッコよくやることはできません。なのに、他人の小さな欠点を探し出して、いじめたり、自分の方がすぐれていると思ったりするのは恥ずかしいことですね。ねっ、先生。とっても恥ずかしいことですね。

私は、自分以下がいない人になりたいです。他人のことをとやかく言わず、自分の生活をまじめにぶつかっていく生き方をしていきたいです。

これは、小学校時代の「いじめた経験」を告白し、中学生になって人権学習を重ねている今でも、まだまだ反省する点があることを自覚し、これからの生き方を改めていこうとする決意を書いた生徒作文です。

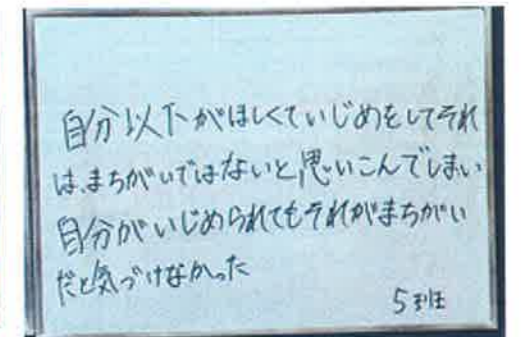
みなさんも自分の生活を振り返ってみてください。周りの人のちょっとした失敗をくすくす笑ったり、ばかにした態度をとったりしたことはありませんか。この作文から、人に

は「弱い心」があります。「弱い心」により相手を傷付けてしまうことがあります。その時は、きちんと反省し、いじめや差別を受けた相手の気持ちを想像して失敗を次へ活かせるようにしてほしいです。しかし、「強い心」も人はもっています。いじめや差別をなくしていけるのも人であり、辛い思いをしている人を助けられるのも人です。みなさんには、作文を書いた生徒のように自分自身を振り返ったり、自分や友達のよさを認められたりできる人であってほしいです。



自分以下を求める心はどうしても生まれてしまうものだと思います。けれど、他人のだめなところを見つけることができるのだから自分のいいところもきっと見つけられると思います。だから、自分以下を見つけ出さず人のいいところ、自分のいいところをたくさん見つけられるような人になりたいです。

(1年 生田 蒼)



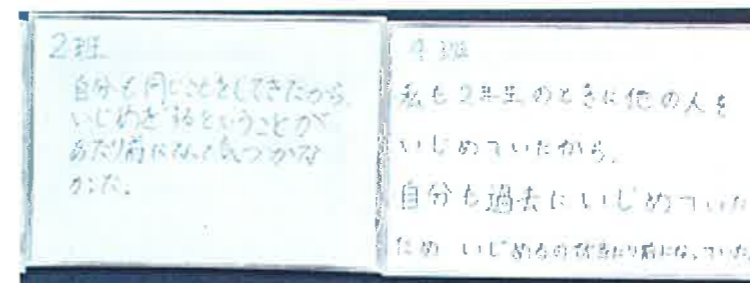
私は、これから相手の弱みなどもその人の個性だと思ったり、その人のよいところなどもどんどんまねして、自分以下を求める心を少しずつなくして、いじめや差別をしないようにしていきたい。

(1年 小濱 晴輝)



この学習をして、自分以下を求める心について考えて私も無意識にやっちゃっているということに気付きました。この考えを自分の中からなくすというのは、難しいので自分以下の人を見て「安心する」という気持ちをこれから少しずつ変えていけたらと思います。周りの人じゃなくて自分を見て行動していきたいです。

(1年 西前 花菜)





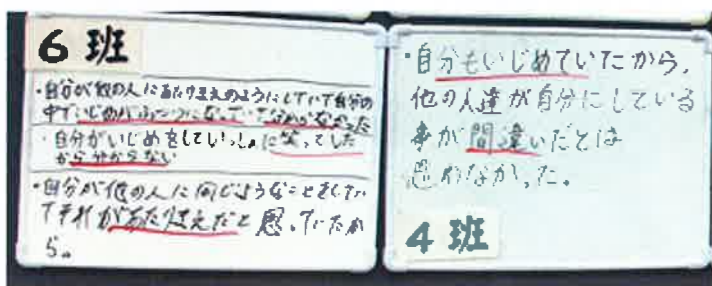
自分以下を求める心を学習して、私は、自分が努力していく生き方をしようと思いました。私もあせったり、失敗したりしてしまうと、自分より下の人を探してしまうことがあります。初めは、行動に出さなかったら何を思っているかわからないかと思っていました。しかし、そうやって自分以下を見つけて安心したりすることより、自分が努力してどんどん上に進んでいき、下を見ずに生きていくほうがよっぽどいいと気付きました。すぐには上に進めないかもしれないけど進もうとすることだけでもいいと私は思うのでこれから頑張っていこうと思いました。

(1年 山本 ゆな)



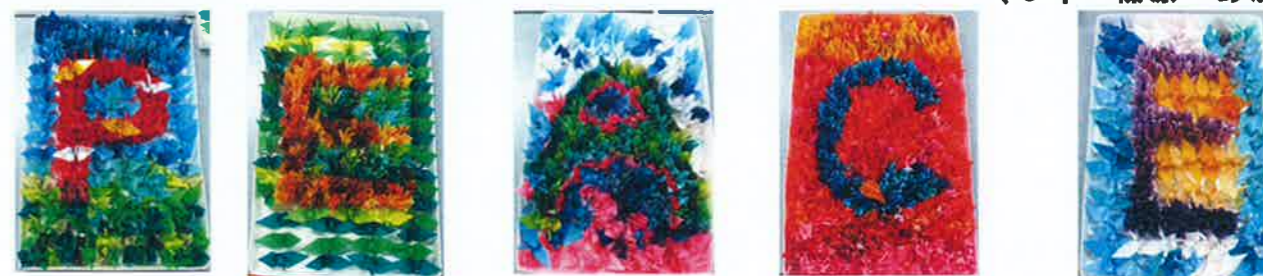
たまに、自分以下を求めてしまうときがあります。そのとき思うのは、自分に自信がないと思っているから求めてしまうと感じました。自分以下を求める努力をするのではなく、自分のことに熱心になって、少しでも自信をつけて、自分以下を求めないようにしていきたい。自分以下ではなく尊敬できるような人を見つけて自分自身を高めていきたい。

(1年 賀上 心美)



平和学習講話で学んだことは、原子爆弾1つでたくさんの命が簡単に奪われてしまったこと、投下された次の日でも残留放射線の影響で直接被害がなかった人にもものちのち被害が及んだこと、そして、広島をアメリカは嘘をつき公表しなかったことです。清水先生の1時間程のお話で1番印象に残ったのは、最後に何度も強く私たちに訴えてくださった「二度と戦争のない世界をつくってほしい。世の中を見る目をつくってほしい。」という言葉です。このような言葉は、今までたくさん聞いてきました。だから、もちろん心には強く響いていましたが、清水さんの言葉はこれまで以上に強く響いてきました。これからは、少しでも戦争の怖さを伝えていければと思いました。

(3年 篠原 あかり)



◇「がんばる 素敵な第2学年」



2-1は理科の授業を頑張っていました。グループでタブレットを使って助け合いながら学習できていました。



2-4は数学の授業でした。落ち着いた雰囲気での学習できていました。



2-3は社会の授業でした。仲間の意見をきちんと聞き、ホワイトボードにまとめることができていました。



2-2は道徳の授業でした。仲間の意見を大切に話し合っていました。

◇～第3学年～ 「国際平和をわがって・・・」

第三学年では、平和学習を通して戦争の悲惨さや亡くなった方の思い、残された遺族の方の気持ちについて考えてきました。5月17日(火)には、広島県原爆ドームを見学し、核兵器の怖さや広島市内で多数の死者が出たことに心が痛みました。また、清水弘士さんのお話を聞き、より一層平和への願いが強くなりました。学活の時間に作った折り鶴を奉納し、一人ひとりの人権が守られ、全ての人が幸せに生きられる社会を築いていくことを誓いました。



◇阿南市人権教育・啓発市民講座について

阿南市では偶数月に阿南市人権教育・啓発市民講座を開講しています。阿南中学校では、PTA家庭・人権教育部と教職員が研修の一環として参加し、人権についての知識や人権問題解決のための技能を学ぶ機会としています。どなたでも参加できますので、ぜひ参加してみてください。



- 日時 令和4年6月21日(火) 14:00~15:30 (13:20分受付)
- 場所 阿南市文化会館(夢ホール)2階研修室
- 講師 徳島大学大学院 社会産業理工学研究部社会基盤デザイン系  
徳島大学環境防災研究センター 危機管理部門スタッフ 金井 純子さん
- 演題 『避難所における要配慮者支援と人権』